

科目名	分子薬理学特論	選択	1単位
-----	---------	----	-----

◎責任教員

担当教員	◎教授 小野 景義 教授 栗原 順一、准教授 上園 崇、助教 木内 茂樹						
開講年度	2019年度	配当年次	1～4年	配当学期	前期	授業方法	講義

授業の概要	ハイパス方式（全8回） （栗原、上園） パーキンソン病やアルツハイマー病、虚血性脳疾患をはじめとする脳神経系疾患あるいは高血圧症などの循環器系疾患について、その病態生理や治療薬に関する最新の科学論文や総説を題材として学び、分子薬理学的な知識を深める。 （小野、木内） 心筋症、心不全、不整脈、虚血性心疾患などの心臓疾患や、ナルコレプシーなどの神経疾患の病態生理について、受容体、イオンチャネル、生体内リガンド、機能タンパク質などの分子異常から疾患に至る過程を最新の科学論文を題材として学び、分子レベルで病態を理解し、薬物治療の基盤となる概念を深く理解できるようにする。
授業の到達目標	疾病のメカニズムとそれに対する治療薬についての最新の文献を読み、情報を取得・吟味する能力を獲得して、医薬品の薬理作用について分子レベルで深くかつ正確に理解できるようになること、および、それを通じて医薬品の開発や適正使用に当たって新しいアイデアを提供できる思考力を養成することを目指す。

授業計画	回数	担当者		行動目標
	1	上園 崇	准教授	パーキンソン病治療薬に関する最新の論文を読み、パーキンソン病の病態生理や治療薬開発の背景を解説でき、パーキンソン病治療薬の作用メカニズムを解説できる。
	2	上園 崇	准教授	パーキンソン病治療薬に関する最新の論文を読み、パーキンソン病治療薬の問題点、これからの研究の方向性を解説できる。
	3	栗原 順一	教授	アルツハイマー病の病態と薬物治療について、最新の研究論文を通して解説することができる。
	4	栗原 順一	教授	脳血管障害の病態と薬物治療について、最新の研究論文を通して解説することができる。
	5	木内 茂樹	助教	心臓疾患に対する最先端の考え方や薬物治療を理解し、解説できる。
	6	木内 茂樹	助教	心臓疾患の治療薬の薬理作用に対する最先端の考え方を理解し、解説できる。
	7	小野 景義	教授	最新の神経疾患に関する研究論文を読み、それを通じてこの分野における研究の考え方が理解でき、解説できる。
	8	小野 景義	教授	最新の神経疾患のメカニズムに関する知識を習得し、新規治療薬の作用メカニズムを説明することができる。

事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	事前に配布する文献を読み、その研究背景を調べて概略を理解しておくことを求めます。与えられた課題にしっかりと取り組み、資料の内容を理解した上で講義に出席することを求めます。 当該期間に30時間程度の予復習が必要となります。事後学習として各回の講義につき3時間程度のまとめと復習時間を要します。
教科書	新たな教科書の購入は求めない。学部講義で用いた薬理学、病態学に関連する教科書を利用する。
参考書	講義の進行に応じ、適宜指定する。
成績評価の方法および基準	各回の講義における課題に関する発表の内容（理解度およびプレゼンテーションの内容）を30%、講義終了後に提出を求めるレポート（理解度、考察および発展について十分な記述がなされているかどうか）を70%の割合で評価する。 一回の欠席につき10点を減点する。
その他履修上の注意事項	提出されたレポートに対し、個別にコメントないし添削を加えてフィードバックを行う。 学位授与方針（ディプロマポリシー）に則り、「自立した研究者としての視点を持った薬剤師となるために必要な専門知識と考え方」を修得したかどうかを評価する。特に、薬理学的な考え方の習得に重点を置く。